

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

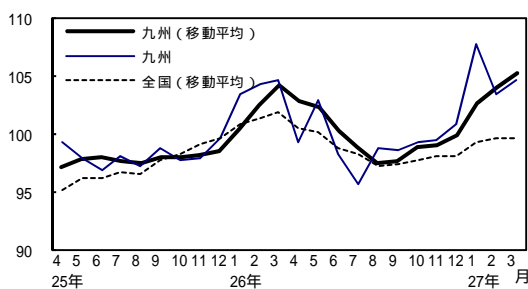
	前回(平成27年2月)	今回(平成27年5月)	
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さ	緩やかな回復基調	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期には、輸送機械は、普通乗用車で国内外向け受注が好調だったこと等により、増加した。電子部品・デバイス、半導体集積回路(ロジック)半導体部品等が好調だったこともあり、増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置、反応用機器等が低調だったこともあり、減少した。食料品は、畜産製品、水産製品等が好調だったこともあり、増加した。化学・石油石炭製品は、皮膚用化粧品で化粧品メーカー向けの大口受注があったこともあり、増加となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	24.5	5.5	23.0	19.8	4.2	1.7
電子部品・デバイス	12.3	13.4	1.3	1.8	4.5	3.3
はん用・生産用・業務用機械	11.2	1.7	1.1	0.6	13.8	5.6
食料品	9.6	1.7	1.6	6.1	2.1	1.9
化学・石油石炭製品	8.3	3.9	8.6	6.0	6.7	6.8
鉱工業	100.0	2.1	5.5	6.8	3.9	1.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期、3月は速報値。

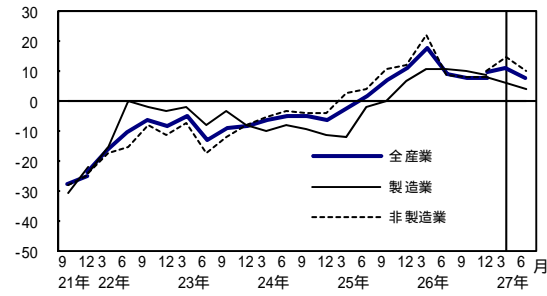
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

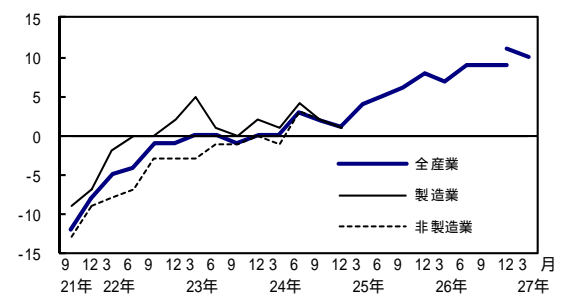
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



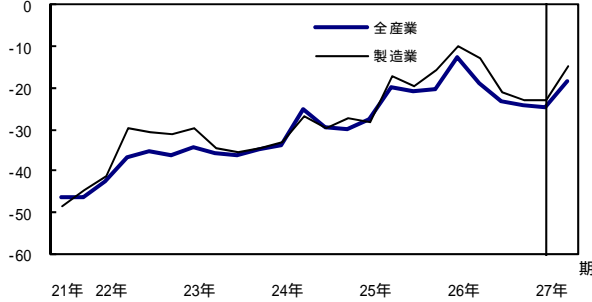
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



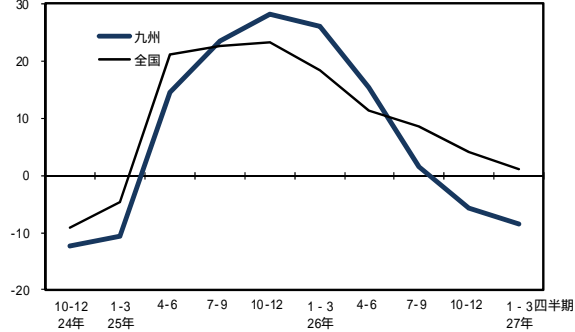
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「例年のような期初の落ち込みが少ない。取引先も繁忙の様子だ(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績見込み	27年度値
全産業	16.4(2.0)	8.1
製造業	16.1(5.5)	5.8
非製造業	16.8(1.3)	19.6

(備考) 1.()は前回(12月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.6%減、2月は同2.7%増、3月は同0.9%減となった。

大型小売店販売額

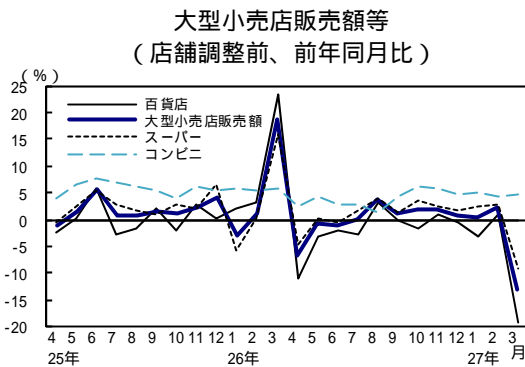
百貨店は、1月は、化粧品、高額品等の動きは良かったものの、年頭商戦やクリアランスセールが低調だったこと等で前年を下回った。2月は、インバウンドやバレンタイン催事に動きがみられたこと等から、前年を上回った。3月は、前年の消費税引上げ前の駆け込み需要の反動が大きく、前年を下回った。

スーパーは、衣料品、その他が前年を下回ったものの、飲食料品は前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、55.0となり前月より1.2ポイント上昇した。

「インバウンドの販売量が、毎月増えており、いまでは約2割を占めるようになった。インバウンドは個人旅行が多く、単価を押し上げており、国内の客単価も上がっている (都市型ホテル)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



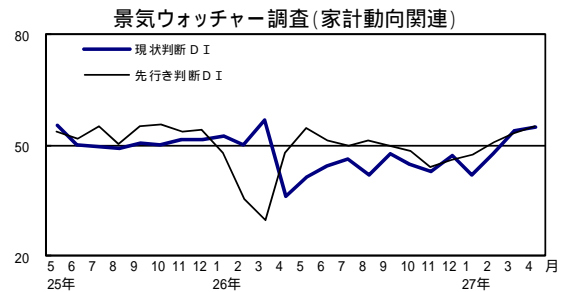
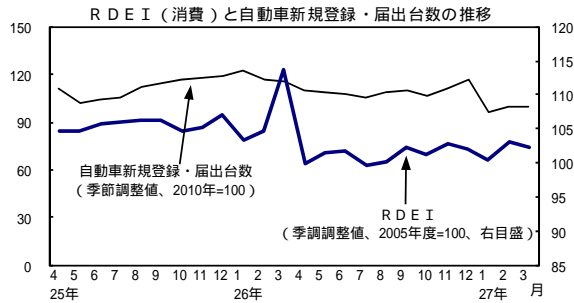
	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.2	1.6	2.7	0.9
大型小売店(*2)	4.3	0.3	2.3	13.1
百貨店(*2)	8.4	3.1	1.1	19.3
スーパー(*2)	1.9	2.3	2.9	9.3
コンビニ(*2)	4.7	5.1	4.3	4.8
乗用車(*3)	15.4	21.3	14.7	11.7
(季節調整値)(*3)	11.6	17.5	2.9	0.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

